

APP 環境新聞

発行日 2024年12月27日

発行者 エイピー・ジャパン株式会社 (APP ジャパン)
ユニバーサル・ペーパー株式会社 (UP)



APPは持続可能な開発目標 (SDGs)を支援しています。



エコプロ2024におけるブースの様子

【エコプロ2024】ご来場ありがとうございました



エイピー・ジャパン株式会社(以下、APPジャパン)とユニバーサル・ペーパー株式会社(以下、UP)は、2024年12月4日から6日にかけて東京ビッグサイト(東京都江東区)で開催された「エコプロ2024」に出展しました。

気候変動の危機を提起した上で、ブース内では売上の一部を寄付してインドネシアの荒廃林を再生する「森の再生プロジェクト〜いっしょにSDGsに取り組もう!〜」(以下、森P)を中心に、APPの取り組みや森P対象製品を紹介しました。現地で森Pを推進するベランテラ環境保護基金のドリー事務局長が今年も来日し、直接寄付をされたお客様や現地を訪問されたお客様を招いて感謝状をお渡ししました。

また、短い時間でAPPの特徴が分かるクイズには多数の小中学生が参加し、SDGs学習の参考になるような森Pニュースレター『インドネシアの森を守る』をティッシュと共にクイズ参加者にお配りしました。

APP COP29に参加



COP29
Baku
Azerbaijan

2024年11月11日~22日に第29回気候変動枠組条約国会議(COP29)がバクー(アゼルバイジャン共和国)で開催され、APPからはサステナビリティ担当役員のエリム・スリタバラが参加しました。

COP29の主題である気候変動資金に関連して、再生可能エネルギーへの投資や地域社会への支援など、民間セクターの投資が果たす役割の重要性を強調しました。

企業と高校生の協創によるワークショップ開催

~筑坂高校主催の高校生国際ESDシンポジウム~

2024年11月9日、筑波大学附属坂戸高等学校(以下、筑坂高校)にて第13回高校生国際ESDシンポジウムが開催されました。その分科会の一つ「企業と高校生による持続可能な社会づくりへの挑戦」は、今夏のインドネシア・フィールドワークに参加した筑坂高校生徒7名と愛媛大学附属高等学校(以下、愛大附属高校)生徒3名を中心に運営され、APP本社及び日本の関係者はベランテラ環境保護基金と共にオンラインで参加しました。

分科会の司会進行は、昨年のツアーに参加した先輩大学生が務めました。本ツアーは、筑波大学との高大接続科目の授業として実施されており、APP本社や工場見学のほか、森P現場での記念植樹や地域住民支援など社会貢献活動の現地視察が行われます。その体験を通じて、生徒の皆さんが探究した内容を英語字幕付き動画に編集し、分科会に招待した筑坂高校進学を目指す中学生と保護者の方々に向けて発表しました。

次に、生徒皆さんの企画による参加型ワークショップが続きました。これは、(裏面につづく)



こんなところに「森の再生プロジェクト」ロゴ



株式会社チンタインク様
「minimini カレンダー」



株式会社吉岡様
「自社カレンダー」



青の炭酸水様
「名刺」



株式会社坂本製菓様
「二色芋栗さんぽ」



天河製菓株式会社様
「焼き芋まんじゅう」

感謝状進呈

天河製菓株式会社様



天河製菓株式会社
河上社長

APP中国サステナビリティ報告書2023を公開



この度、APP中国のサステナビリティ報告書2023(英語版)が公開されました。

APP中国全体、並びに各工場におけるESG各種取り組みや、「APP Sustainability Roadmap Vision 2030」の目標に対する対応状況について説明しています。以下のリンクからご参照ください。

http://www.app-j.com/topics/attach//2024/09/20_23_APP-China.pdf

「自分はインドネシア視察に行くことができたので、インドネシアの課題を自分ごとにすることができた。しかし、現地に行けない人も多い。ぜひ、自分が分かりやすくエシカル消費の重要性を伝えていきたい」という動画内の生徒さんの言葉を具現化したものです。買い物を題材にして、持続可能な社会に向けて自分達に何ができるか中学生に議論してもらいました。

最後に、その様子を見ていたAPP関係者とドリー博士が振り返りのコメントを寄せて分科会は終了しました。今回の動画は、本年12月に開催されたエコプロ2024のAPPジャパン/UPブース内においても、企業と学校の連携事例として上映・紹介されました。



ワークショップの様子



フィールドワーク報告動画



森P進捗状況

植樹面積: 94ヘクタール
植樹本数: 51,896本
2024年11月現在

インドネシア
ギラム・シアク・クチル
ニフキット・バトゥ
生物圏保護区
Benkulen Island
ハダン島
Pulau Pedang
森Pサイト
Pekanbaru
ブカンバル市
Pangkalan

経済産業新報に記事掲載

～高校生によるインドネシア・フィールドワーク～



筑坂高校と愛大附属高校の生徒さん達が今夏に参加したインドネシア・フィールドワークの様子について、経済産業新報11月15日号と12月15日号の2回に渡り記事掲載されました。

記者の同行により、APPに関係する全旅程の詳細な取材記事とともに、参加した学生さん達の感想も紹介されました。

今年も JEI SDGsサーベイを実施しました!

2024年度秋季、組織内のSDGs意識・実践向上を目的に、一般社団法人日本エシカル推進協議会(以下、JEI)による『JEI SDGsサーベイ』を実施しました。

APPジャパンでは、2019年から6回目調査、UPIは2021年から4回目調査となります。経年調査を通じて、SDGsを「学習したのでよくわかって行動している」回答者はAPPジャパンにおいて56%と、一般回答よりも高い結果に至るものの、2022年度をピークに比率が減少し、UPIはそれを追いつける結果となっています。

今後も継続して取り組みを強化し、ベストプラクティスに近づけるよう、両社連携による組織内共有を推進してまいります。

Trade Expo Indonesiaにてアワード受賞

11月21日、駐日インドネシア大使公邸において、APPジャパンとUPIはインドネシア産品の輸出貢献企業として表彰を受けました。コピー用紙やティッシュなどを長年に渡り日本に紹介してきた功績が認められたものです。両社製品をご愛顧いただいている皆様、厚くお礼申し上げます。



大使より表彰を受ける

中学生の企業訪問プログラムを継続実施

今年の10月から12月にかけて、昭和学院中学校(千葉県市川市)、練馬区立開進第三中学校、市川市立第二中学校、そして新潟市立木戸中学校の計4校23名の学生をお迎えしました。

各回において、SDGs達成に向けたAPPグループの取り組みを紹介した後に学生さん達の質問に回答し、森P対象製品のティッシュなどAPP製品を記念にお持ち帰りいただきました。



写真
(左上) 昭和学院中学校
(右上) 練馬区立開進第三中学校
(左下) 市川市立第二中学校
(右下) 新潟市立木戸中学校

「一柳良雄が問う日本の未来」にAPP役員出演

12月14日、BSテレビ東京のビジネス番組「一柳良雄が問う日本の未来」に、APPのサステナビリティ担当役員エリム・スリタバが出演し、森林資源を使う紙づくりの過去・現在・未来に関するインタビューの様子が放送されました。

- 12月28日9時29分まで「ネットもテレ東」や「TVer」にて見逃し配信をご視聴できます。
- 番組のダイジェスト版はこちらから
https://www.youtube.com/watch?v=PGISobjg_Mo



「APPはこう考える」～インドネシア産の紙製品～

インドネシア産の紙製品は植林木100%を謳っているが、森林破壊に繋がっている!と批判されることがあります。

その理由は、植林地開発のために30年間も自然林の伐採が続けている、森に火をつけて森林火災を引き起こしている、さらに地域住民の権利を無視して土地を収奪している、というものです。

APPは、過去の森林開発を合法的でしたが持続可能性の点で完璧でなかったと反省し、2013年から自然林伐採ゼロを誓約しています。火を使うことは1994年時点より禁止しています。

土地紛争は、2013年にFPIC方針*の順守を誓約して以来、建設的な対話ができるコミュニティの多くと紛争を解決済みです(全体の67%)。第三者利権が絡んだり、対話が難しいなど、自社だけでは解決できないケースが残存し、困難を伴っています。

*FPIC(Free, Prior and Informed Consent/十分に情報を与えられた上での自由意思に基づく事前の合意)、土地開発にあたり先住民や地域住民の権利を守るための交渉方針



森の再生プロジェクト～いっしょにSDGsに取り組もう!～ 参加方法

1. プロジェクトの対象製品を購入する
2. 個人・法人等で寄付をお考えの方
(sustainability@appj.co.jp までお問い合わせください)

APP 環境新聞バックナンバー

こちらよりご覧いただけます
<http://www.app-j.com/topics/1673.html>